

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 【I 理念に基づく運営】 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 『楽しく・笑顔で・豊かに』をモットーに、全スタッフが理念の本質・意味を理解し、それぞれが考えながら具現化できるように努めている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 全職員を対象とした会議を開催し、新たな理念について、その機能と意味を確認し合っている。又、食堂やスタッフルームに掲げている。 | | |
| 3 | — | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 交流行事や運営推進会議を通して、地域の方々やご家族に理解を得られるよう取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支え合い | | | | | |
| 4 | — | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | ホーム沿いを通られている歩行者には、必ず挨拶をするように心掛けている。又、保育園や小学校と交流を持つことで、オープンなイメージを持って頂けるよう取り組んでいる。 | | |
| 5 | 3 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 隣組に参加させて頂き、敬老会や校区民大会などの地域行事にも参加させて頂いている。 | | |
| 6 | — | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 地域での介護教室を開催したり、運営推進会議を通して、民生委員の相談などに応じたりしている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|--|-------------------------|--|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 7 | 4 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価で日々の業務を改めて見直し、外部評価で客観的な視点からホームを評価して頂くことで、業務改善・サービス向上のきっかけとして活用できるように取り組んでいる。 | | |
| 8 | 5 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームでの日々の活動内容や行事など、事前・事後の説明・報告を会議の場で行い、ご意見やアドバイスを頂くように心掛けている。 | | |
| 9 | 6 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域包括支援センター、市役所長寿介護課へ必ず月に1回以上は訪れるか、電話を取るなどしてコンタクトを継続するように努めている。市主催の研修会等には参加するように心掛けている。 | | |
| 10 | 7 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 現在2名の入居者が、家族の希望により実施している。 | ○ | 今後も希望者や必要と思われる方に、説明やアドバイスなど、支援が出来る体制を整備する。 |
| 11 | — | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修に参加したり、内部研修を実施したりして、スタッフの知識向上に努めている。又、日頃から見落としが無いようにスタッフ間で注意するように促している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 12 | — | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時等に際し、必ず入居者及び家族と面談を行い、十分に説明し、少しでも不安点や疑問点を払拭できるように努めている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 13 | — | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている | モニタリングだけでなく、家族を介して入居 者のご意見等を積極的に聞く機会を作るよう に努め、カンファレンスや会議の場にて、周 知・検討している。 | | |
| 14 | 8 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる | 病院受診時等は、必ず事前後に家族と連絡を 取り、報告している。 その他、ホームでの過ごし方等は、毎月1回 手作りのお便りを発行し、お知らせしてい る。 | | |
| 15 | 9 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先に意見箱を設置し、面会時には積極的 に意見や要望を伺うように努めている。 運営推進会議の委員として、家族・区長・民 生委員の方々に参加して頂き、意見や苦情等 の反映・解決に前向きに取り組んでいる。 | | |
| 16 | — | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている | 年に2回、スタッフと理事との面接を行い、 意見や提案等を促す機会を設けている。又、 定期的に理事も交えたスタッフ会議を開催し ている。 | | |
| 17 | — | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている | 様々な状況や行事等により、人員を増やす必 要がある場合は、状況に応じて人員を配置・ 調整するように努めている。 | | |
| 18 | 10 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動は最小限に抑え、スタッフの離職も出来 るだけ減少できるように、意見を尊重し、検 討できるように努めている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 19 | 11 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員を募集する場合は、基本的に性別・年齢等の制限は設けていない。又、スタッフがそれぞれ自分の長所を活かせるよう努めている。 | | |
| 20 | 12 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 毎年12月の人権啓発週間に合わせて、講習会を実施している。 | | |
| 21 | 13 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部研修は、スタッフの要望等も取り入れながら実施している。 外部研修には、出来るだけ多く参加できるように努めている。 新任職員には、新任職員研修計画を作成し、より効果的に育成できるように努めている。 | | |
| 22 | 14 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同地域のホームと連絡を取り、積極的に情報交換・意見交換を行いながら、相互協力できるように努めている。 | | |
| 23 | — | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 懇親会や親睦会を催したり、慰安旅行を実施している。 管理職講習のストレスケアに参加し、様々な面からストレスの緩和に努めている。 | | |
| 24 | — | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 人事考課を導入し、主観的・客観的な両面からスタッフの業務に取り組む姿勢について個別把握に努めている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 25 | — | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 必要に応じて数回の面談を行い、その中で生活状況や、希望されているものの把握に努めている。 | | |
| 26 | — | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 施設見学を兼ね来荘して頂き、家族のニーズや、不安、疑問点の把握に努め、充分な話し合いを行っている。 | | |
| 27 | — | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談の内容に応じて、必要と思われるサービスの情報を提供し、又、各関係機関への連絡調整を行っている。 | | |
| 28 | 15 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人が使用された生活用品を持参して頂き、慣れ親しんだ空間に近付けられるように努め、環境の変化に伴うダメージを少なくしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 29 | 16 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 一人ひとりの人格を尊重し、畑仕事や家事の面でアドバイスを頂いたり、お手伝いをして頂いている。 | | |
| 30 | — | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 面会時等を活用し、家族と情報交換を密に行い、職員と一体となって利用者の生活支援に努めている。 行事への参加を促したりして、役割を担ってもらっている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 31 | — | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 家族も宿泊されたり、食事介助などを一緒にされるなど、利用者本人と家族との関係が希薄化しないように努めている。 | | |
| 32 | — | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人や友人等に訪問してもらったり、電話や手紙、ハガキでの連絡等、繋がりを継続できるように支援している。 | | |
| 33 | — | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている | 利用者同士の仲の良し悪し等に配慮したケアを心掛け、孤立化の解消に努めている。 | | |
| 34 | — | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | サービスの利用終了後も、ホームに立ち寄り続けられりと、関係の維持が出来ている。 | | |

【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】

1. 一人ひとりの把握

| | | | | | |
|----|----|--|---|--|--|
| 35 | 17 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の言葉や日々の行動、表情等から読み取り、どのように暮らしたいか、何をしたいか、本人の視点に立ち、話し合いをしている。 | | |
| 36 | — | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | プライバシーに配慮しつつ、職員が本人やご家族等と馴染みの関係を築きながら、会話の中などからの状況把握に努めている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 37 | — | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 1日の生活リズム、体調の変化等を総合的に見つけ、利用者の残存機能を日常生活の中から発見できるように努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 38 | 18 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者主体の暮らしを念頭に置き、一人ひとりのその時点の状況や状態に応じた介護計画を、職員間で検討し作成している。 | | |
| 39 | 19 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 現状に即した見直し、話し合いに基く臨機応変な見直し、新たな要望や変化時も職員間で検討し見直しを図っている。 | | |
| 40 | — | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人ファイルを作成し、日々の状況、心身両面の記録を行い、状態変化の記録、又は評価に繋げている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 41 | 20 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人からの買物や外食の要請には個別に応じ、又、家族からの通院要請にも臨機応変に対応している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 42 | — | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 運営推進会議に地域の民生委員、区長に参加して頂き、状況の報告や協力を頂いている。又、防災訓練等を行う際には、消防署の協力を依頼している。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 43 | — | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている | 必要に応じて、他事業所のケアマネージャーや相談員へ相談、アドバイスを受けるなど連携を図っている。 | | |
| 44 | — | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議に地域包括支援センターからも参加して頂いており、相談・アドバイス等を頂いている。 | | |
| 45 | 21 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用前の受診経過、現在の受診希望等を把握し、今までのかかりつけ医や、希望する医療機関に受診している。 | | |
| 46 | — | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 適切な指示や助言をしてくれる医師の下で、診断や治療・対処方法等を個々に支援している。 | | |
| 47 | — | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 非常勤の看護師や、委託契約医療機関の看護師等、利用者の状況報告に努めている。又、有事の際は電話にて対応法等を相談している。 | | |
| 48 | — | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院する際は、本人のストレスや負担を軽減する為に家族等と相談しつつ医療機関の相談員や看護師と連携を図りながらスムーズに退院できるように支援している。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 49 | 22 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 家族や主治医等のケア関係者と話し合いを持ち、日常の健康管理や急変時に迅速に対応が出来るように体制を整えている。 | | |
| 50 | — | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 常に家族や本人の意向を確認しながら、希望に沿った生活が送れるように、介護内容を見極め取り組んでいる。 | | |
| 51 | — | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 暮らしやケアの継続が維持できるように、事業所内での介護内容や個別情報の伝達、プライバシーに配慮し、移られる先の関係者に伝えている。 | | |
| 【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 52 | 23 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 目立たず、さりげないケアを心掛け、排泄時等は特にプライバシーの保護に努めている。全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持を徹底している。 | | |
| 53 | — | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 利用者と過ごす時間を介し、希望や関心を見極め、それを元に利用者が日常生活の中で選びやすいシーン作りに努めている。 | | |
| 54 | 24 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の本人の心身の状況を主体とした生活に、スタッフが寄り添いながら支援している。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 55 | — | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 定期的に出張美容室に来ていただき、身だしなみを支援している。 | | |
| 56 | 25 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と一緒に食事を摂りながら、個々の嗜好等を把握し、メニューに取り入れている。又、準備や片付け等も能力に応じて手伝っていただいている。 | | |
| 57 | — | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 喫煙される利用者は現在居られない。一人ひとりの希望や好みに応じて、他の利用者に充分配慮しながら支援している。 | | |
| 58 | — | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 個々の排泄パターンを全職員が把握し、さりげない誘導に努め、失敗された場合も、他の利用者に気付かれないように素早く処理するように心掛けている。 | | |
| 59 | 26 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者本人が入りたいと思う時間帯に入浴できる体制を整え、その時々希望を大切にしている。 | | |
| 60 | — | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 外出行事や入浴後など、その日の流れに応じて個別に休息できるように努めている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 61 | 27 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 洗濯物をたたんだり、食器を拭いていただく等、利用者の残存機能を活かすことができる場面作りに努めている。 | | |
| 62 | — | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在個人でお金を管理されている方は居られないが、能力や希望に応じて対応できるように支援できる体制を整えている。 又、家族の了解を得た上で、自由に買物等が出来るように努めている。 | | |
| 63 | 28 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 希望された場合は、利用者が希望される場所へお連れするように支援している。 | | |
| 64 | — | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 外食や温泉に出掛けたり、花見や紅葉狩りなど、季節に応じたドライブを実施している。 | | |
| 65 | — | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話も手紙も、利用者や本人の希望に応じ、自由にやりとりが出来るように支援している。 | | |
| 66 | — | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している | 夜間は21時で施錠しているが、仕事の都合等で家族の面会が遅くなる場合等は、そのただけの場に応じて対応している。又、足りない椅子などを準備するなどして、居室内でゆっくり過ごして頂けるように努めている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 67 | — | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の内容と、拘束をする際に起きる弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 | | |
| 68 | 29 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 安全上、21時から翌朝7時までは玄関を施錠しているが、来訪者等来られる場合は臨機応変に対応している。それ以外は、玄関・各居室等の施錠は一切行っていない。 | | |
| 69 | — | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 時間帯に応じて職員の配置状況を考慮しながら、極力死角を無くし、さりげない見守りに努めている。 | | |
| 70 | — | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 薬品等管理が必要な危険物に関しては施設側で管理し、利用者の状態と危険物の度合いに応じて自己管理できるものは、管理して頂くように努めている。 | | |
| 71 | — | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 法人全体で事故防止検討委員会を設置し、ホーム内だけではなく、他の事業所のヒヤリハットや事故報告書を共有することで、カンファレンス等で個々に起き得る事故に対しての対応策を検討、全職員に周知するように努めている。 | | |
| 72 | — | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 年に1回、消防署より救急救命士を招き、全職員を対象とした救急救命講習を実施している。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 73 | 30 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 職員のみでの避難誘導の限界を踏まえ、運営推進会議に参加して頂いている区長、民生委員の方々に、有事の際の協力をお願いしている。又、避難訓練等にも定期的に参加・見学している。 | ○ | 震災・水害の避難訓練の実施。 |
| 74 | — | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 面会時等の近況報告の中で、想定されるリスクについて家族と話し合い、抑制感を感じない範囲での対応策を検討している。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 75 | — | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 普段の状態をよく観察し、変化や異常、その兆候等の早期発見に注意している。変化やサイン、その対応等について即座に検討し、記録している。 | | |
| 76 | — | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の服薬状況や薬品の内容については、個々のファイルに綴じ、全職員が把握している。服薬の際には、飲み込みまで確認し誤薬防止に努めている。 | | |
| 77 | — | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 排便チェック表を確認、申し送りを徹底し、個々の状態把握に努めている。必要に応じて牛乳やヨーグルトをおやつに取り入れるなどの工夫を行っている。 | | |
| 78 | — | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 口腔ケアは毎食後実施している。入れ歯の管理、手入れを確実にしている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 79 | 31 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分・食事チェック表を確認し、一人ひとりの状態の把握に努めている。必要時には水分補給等を促している。 | | |
| 80 | — | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染症予防マニュアルに沿って予防に努めている。又、感染症が増える時期は、便器や手すり等の消毒を毎日実施している。インフルエンザの予防接種は、利用者・職員全員を対象として年1回実施している。 | | |
| 81 | — | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 衛生管理表を作り、清潔、衛生に努めている。食材はその都度使い切る様にメニューを考え、新鮮な食材を使用している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 82 | — | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 建物の周囲に花や果樹を植え、畑を作るなどして、出入りしやすい雰囲気作りに努めている。 | | |
| 83 | 32 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間内のディスプレイは、季節に応じて変えている。入浴時には浴槽にゆずを浮かべるなどして季節感を感じて頂けるように配慮している。 | | |
| 84 | — | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂以外にもソファやベンチを置くことで、共有空間の中にでも、独りで寛げる空間作りに努めている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットA棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 85 | 33 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居以前より自宅で使用されていたタンスや時計などを置いたり、アルバムや写真等を家族に持ってきて頂き、馴染みのあるものが身近にある中で生活して頂けるように取り組んでいる。 | | |
| 86 | — | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 換気はこまめに行い、空気の入換えに努めている。室温や湿度は職員が常に注意を払いながら常時調節している。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | | |
| 87 | — | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 車椅子や杖を使用されている方も、移動は出来るだけ自ら行って頂けるように、障害物となりそうなものの配置状況に注意している。 | | |
| 88 | — | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 不安や混乱、失敗を招くような環境や物品については、職員で検討し、認識問題や判断ミスを最少にするよう取り組んでいる。 | | |
| 89 | — | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 気候や気温に応じて、外で体操や畑仕事、散歩等出来るように努めている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|------------------------|----|--|------------------|---|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| V サービスの成果に関する項目 | | | | |
| 90 | — | ○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない |
| 91 | — | ○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない |
| 92 | — | ○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 93 | — | ○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 94 | — | ○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 95 | — | ○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 96 | — | ○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|------|----|--|------------------|---|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| 97 | — | ○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない |
| 98 | — | ○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている | ○ | ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない |
| 99 | — | ○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない |
| 100 | — | ○職員は、生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 101 | — | ○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 102 | — | ○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近くに大きな川が流れ、水田が広がる環境を散歩したり、畑作りを行う等して活用したり、又、小学校や保育園が近くに点在し、定期的に交流を図り、近隣の住民の方々も大変協力的であるという地域資源が、当ホームの何よりのアピールポイントであり、他の事業所では簡単に模倣出来ない長所である。
音楽療法やケアビクス等を外部から講師を招きながら定期的を実施し、利用者の五感に働きかけるような取り組みを実施している。
昨年、同法人内で起きた介護死亡事故を教訓に、事故防止対策委員会を設置し、徹底したリスク管理を目指し学んでいる。

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 【I 理念に基づく運営】 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 『楽しく・笑顔で・豊かに』をモットーに、全スタッフが理念の本質・意味を理解し、それぞれが考えながら具現化できるように努めている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる | スタッフルームや応接室などの目に付く場所に理念を掲示し、意識の共有に努めている。 | | |
| 3 | — | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 交流行事や運営推進会議を通して、地域の方々やご家族に理解を得られるよう取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支え合い | | | | | |
| 4 | — | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | ホーム沿いを通られている歩行者には、必ず挨拶をするように心掛けている。又、保育園や小学校と交流を持つことで、オープンなイメージを持っていただけるよう取り組んでいる。 | | |
| 5 | 3 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 隣組に参加させていただき、敬老会や校区民大会などの地域行事にも参加させていただいている。 | | |
| 6 | — | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 地域での介護教室を開催したり、運営推進会議を通して、民生委員の相談などに応じたりしている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 7 | 4 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価で日々の業務を改めて見直し、外部評価で客観的な視点からホームを評価していただくことで、業務改善・サービス向上のきっかけとして活用できるように取り組んでいる。 | | |
| 8 | 5 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームでの日々の活動内容や行事など、事前・事後の説明・報告を会議の場で行い、ご意見やアドバイスをいただくように心掛けている。 | | |
| 9 | 6 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域包括支援センター、市役所長寿介護課へ必ず月に1回以上は訪れるか、電話を取るなどしてコンタクトを継続するように努めている。市主催の研修会等には参加するように心掛けている | | |
| 10 | 7 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 現在2名の入居者が、家族の希望により実施している。 | | |
| 11 | — | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 外部研修に参加したり、内部研修を実施したりして、スタッフの知識向上に努めている。又、日頃から見落としが無いようにスタッフ間で注意するように促している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 12 | — | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時等に際し、必ず入居者及び家族と面談を行い、十分に説明し、少しでも不安点や疑問点を払拭できるように努めている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 13 | — | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている | モニタリングだけでなく、家族を介して入居 者のご意見等を積極的に聞く機会を作るよう に努め、カンファレンスや会議の場にて、周 知・検討している。 | | |
| 14 | 8 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる | 必要に応じて家族へ連絡したり、面会時を利用 して状況報告を行っている。又、広報誌を 毎月発行している。 | | |
| 15 | 9 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先に意見箱を設置し、面会時には積極的 に意見や要望を伺うように努めている。 運営推進会議の委員として、家族・区長・民 生委員の方々に参加していただき、意見や苦 情等の反映・解決に前向きに取り組んでい る。 | | |
| 16 | — | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている | 年に2回、スタッフと理事との面接を行い、 意見や提案等を促す機会を設けている。又、 定期的に理事も交えたスタッフ会議を開催し ている。 | | |
| 17 | — | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている | 様々な状況や行事等により人員を増やす必要 がある場合は、状況に応じて人員を配置・調 整するように努めている。 | | |
| 18 | 10 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動時や離職時には広報誌にて家族へお知ら せし、利用者へも報告を行う等、ダメージへ の配慮を行っている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 19 | 11 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員を募集する場合は、基本的に性別・年齢等の制限は設けていない。又、スタッフがそれぞれ自分の長所を活かせるよう努めている。 | | |
| 20 | 12 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 毎年12月の人権啓発週間に合わせて、講習会を実施している。 | | |
| 21 | 13 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部研修は、スタッフの要望等も取り入れながら実施している。 外部研修には出来るだけ多く参加できるように努めている。 新任職員には、新任職員研修計画を作成し、より効果的に育成できるように努めている。 | | |
| 22 | 14 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同地域のホームと連絡を取り、積極的に情報交換・意見交換を行いながら、相互協力できるように努めている。 | | |
| 23 | — | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 懇親会や親睦会を催したり、慰安旅行を実施している。 管理職講習のストレスケアに参加し、様々な面からストレスの緩和に努めている。 | | |
| 24 | — | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 人事考課を導入し、主観的・客観的な両面からスタッフの業務に取り組む姿勢について個別把握に努めている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 25 | — | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居される際は、事前に本人に会い、希望されていることや困っていること等情報収集を行い、安心して利用していただけるようにしている。 | | |
| 26 | — | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居に至るまでに一度施設見学を兼ね来荘していただき、利用者・家族の話を十分に聞き、何を希望されているか等、意向の把握に努めている。 | | |
| 27 | — | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居される場合は、利用者・家族にとって何が必要かを見極め、適切なサービスを提供できるよう努めている。 | | |
| 28 | 15 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人が親しんできた部屋や空間作りに努め、家具や食器なども使用されていたものを持参していただき、本人が安心して生活できるように配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 29 | 16 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 本人の個性を大事にし、一緒に生活する場として畑作りを習ったり、活け花の仕方等を教えていただいたりしている。 | | |
| 30 | — | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 家族面会時に近況報告・相談をすることで、新たな情報を共有し、ケアに活かすようにしている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 31 | — | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 利用者の生活歴の環境等の把握に努め、家族関係を理解し、役割が失われないよう支援している。 | | |
| 32 | — | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人とコミュニケーションを取る中で、これまでの関係を大切にし、個々を尊重した言葉かけを行っている。又、面会や外出・外泊の規制を行わず自由に来荘していただき、継続的な交流が出来ている。 | | |
| 33 | — | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている | 利用者同士の相性に配慮し、本人の席を決めるようにしたり、孤立することがないように常に気配りをしている。 | | |
| 34 | — | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 退去される際には、退去後の行き先等を家族とも十分に話し合い、退去後も情報提供する等の支援をしている。 | | |
| 【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 35 | 17 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人とコミュニケーションを取りながら、何を望まれているか情報収集に努めている。又、スタッフ間で情報交換をしながら、周知するようにしている。 | | |
| 36 | — | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人の生活歴、生活習慣等の把握に努め、新たな情報があれば職員間で情報を共有するようにしている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 37 | — | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のペース・健康状態に合わせて生活していただいている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 38 | 18 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人・家族からの情報を職員間で情報・意見交換の場を定期的につつようになっている。 | | |
| 39 | 19 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の期間以前に、本人・家族の要望、又は、本人の状態変化等のある場合には、現状に応じた介護計画の見直しをするようになっている。 | | |
| 40 | — | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録にその日の様子、ケアプランに沿ったケア内容、結果など個別に記録し、日常のケアや見直しに活かしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 41 | 20 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 通院や外泊時には、家族の希望により職員で送迎する等、必要に応じて個別に対応している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 42 | — | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 地域密着型サービス運営推進会議等を介して、地域の民生委員、婦人会等と連携を図り、消防署には避難訓練や救急救命講習等の協力を頂いている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 43 | — | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている | 必要に応じて適切なサービス利用が出来るように、他のケアマネージャーと相談している。 | | |
| 44 | — | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議に地域包括支援センターからも参加して頂いており、相談、アドバイス等を頂いている。 | | |
| 45 | 21 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の希望を大切に、希望された主治医のもと、適切な医療を受けられている。 | | |
| 46 | — | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 主治医との密な情報交換や、協力医への相談を行い、適切な指示・助言を受けている。 | | |
| 47 | — | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 看護師によって利用者の健康管理や医療活用がなされ、相談しながら情報を共有している。 | | |
| 48 | — | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院中は出来るだけ面会に何うように努め、入院中の不安解消を図っている。又、病院側と連携を取り、早期退院へ向け支援している。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 49 | 22 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 本人の健康状態に関しては、その都度報告を行い、必要に応じて家族と主治医の話し合いの場を設け、今後の方針について話し合い出ている。 | | |
| 50 | — | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | その時の本人の状態に合わせ、「出来ること・出来ないこと」を見極めるようにしている。又、必要に応じて主治医への指示・助言を仰ぎ、無理の無い範囲で支援をしている。 | | |
| 51 | — | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 入退去時には、環境の変化によるストレスに十分に配慮し、家族や主治医、職員等で対応法を検討している。 | | |
| 【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 52 | 23 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 本人の生活歴を知り、威厳を尊重した言葉掛けや介助を心掛けている。又、個人情報の取り扱いについて職員で周知し、取り組んでいる。 | | |
| 53 | — | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 会話をするときには、「短く・簡潔に」を心掛けている。 本人が選択し、自己決定が出来るような場面作りに努めている。 | | |
| 54 | 24 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 外に出たい方には、職員と一緒に付き添ったり、希望される時間帯に入浴していただけるように配慮している。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 55 | — | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 本人・家族の希望に沿って理美容の支援をしている。又、身だしなみに関しては自分で出来ることはしていただいている。 | | |
| 56 | 25 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備は、食材の皮むき、野菜切りなど、出来る範囲で手伝っていただき、片付けに関しても下膳・食器拭き等を役割を持ってされている。 | | |
| 57 | — | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 本人の嗜好に合わせ、飲み物やおやつを提供をしている。 喫煙者は現在居られないが、飲酒に関しては、お祝いの席などで提供したりしている。 | | |
| 58 | — | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、出来る限りトイレで排泄されるよう支援している。又、オムツの使用は職員で十分検討し、本人の能力を見極めながら支援するように努めている。 | | |
| 59 | 26 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日入浴を好まれる方、好まれない方など、本人の希望に沿って入浴して頂いている。入浴を好まれない方は無理強いせず、入浴介助を親しみのある職員に交代するなどして清潔保持に努めている。 | | |
| 60 | — | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 行事・外出時等、疲れを要する場合や、本人の体調面を考慮し休息してもらう等、その時の状況や個人の生活リズムを大事にして支援している。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 61 | 27 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ライフストーリーを作成し、本人・家族の意向や希望の把握に努めている。 個々の生活歴を知ること、本人の役割や活動提供へ反映させている。 | | |
| 62 | — | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の所持は、本人・家族と相談しながら所持して頂いている。又、本人が欲しいものを選んで購入してもらう等、買物支援に努めている。 | | |
| 63 | 28 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 本人の希望があれば、いつでも出掛けられるように支援し、バスハイクや買物等の機会を設け、社会との関わりが希薄化しないように努めている。 | | |
| 64 | — | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族親睦会を設け、家族と一緒に外食したり、利用者の希望により温泉へ行く等、個々に合わせ支援している。 | | |
| 65 | — | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望により電話をされたり、家族が本人宛に電話を掛けてこられる場合は、必要に応じて支援している。 | | |
| 66 | — | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している | 夜間は21時で施錠しているが、仕事の都合等で家族の面会が遅くなる場合等は、その場に応じて対応している。又、足りない椅子などを準備するなどして、居室内でゆっくり過ごして頂けるように努めている。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 67 | — | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は一切行っておらず、本人の意思を尊重したケアを心掛けている。 | | |
| 68 | 29 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 安全上、21時から翌朝7時までは玄関を施錠しているが、来訪者等来られる場合は臨機応変に対応している。それ以外は、玄関・各居室等の施錠は一切行っていない。 | | |
| 69 | — | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 時間帯に応じて職員の配置状況を考慮しながら、極力死角を無くし、さりげない見守りに努めている。 | | |
| 70 | — | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 薬品等、管理が必要な危険物に関しては施設側で管理し、利用者の状態と危険物の度合いに応じて自己管理できるものは、管理して頂くように努めている。 | | |
| 71 | — | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 法人全体で事故防止検討委員会を設置し、ホーム内だけではなく、他の事業所のヒヤリハットや事故報告書を共有することで、カンファレンス等で個々に起き得る事故に対しての対応策を検討、全職員に周知するように努めている。 | | |
| 72 | — | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 年に1回、消防署より救急救命士を招き、全職員を対象とした救急救命講習を実施している。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 73 | 30 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 職員のみでの避難誘導の限界を踏まえ、運営推進会議に参加して頂いている区長、民生委員の方々に、有事の際の協力をお願いしている。又、避難訓練等にも定期的に参加・見学して頂いている。 | ○ | 震災・水害の避難訓練の実施。 |
| 74 | — | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 家族面会時は必ず近況報告をし、併せて起こり得るリスクについて説明を充分に行い、家族に理解して頂いている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 75 | — | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | バイタル測定値だけではなく、行動の変化、体調面の異常を見落とさないように、日常生活の状態観察を行っている。又、異常時は看護師、医師等に指示を仰いでいる。 | | |
| 76 | — | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個別に服薬状況シートを作成し、薬の目的・副作用・用量等を理解できている。服薬変更・追加時は確実な申し送りをして、症状の変化を記録し医師と連携を図っている。 | | |
| 77 | — | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 下剤は最終手段とし、毎朝きな粉牛乳を提供したり、個々に合わせ乳製品、水分量を多く摂ってもらい、便秘予防に努めている。 | | |
| 78 | — | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 歯科衛生士を中心に口腔内の清潔保持に努めている。又、義歯の方は義歯洗浄日を決め、清潔保持できるように支援している。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 79 | 31 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々に合わせた食事量・食事形態や主治医の指導の下、一人ひとりの状態に合わせ支援している。 | | |
| 80 | — | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染症予防マニュアルに沿って予防に努めている。又、感染症が増える時期は、便器や手すり等の消毒を毎日実施している。インフルエンザの予防接種は、利用者・職員全員を対象として年1回実施している。 | | |
| 81 | — | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 台所に関しては、清潔・衛生を保てるように衛生管理チェック表を活用し実施している。又、食材の管理担当を決め冷凍する場合は日付を記入し、新鮮な食材の提供に努めている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 82 | — | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関に季節の花を飾ったり、来訪されて目に付く場所に金魚を飼育して、親しみやすい環境作りに努めている。 | | |
| 83 | 32 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テレビの音量や調光など、共有空間では利用者に合わせ、こまめに調整している。トイレには季節の花を飾り、安心できる空間作りに努めている。 | | |
| 84 | — | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者一人ひとり思いのままに過ごして頂き、独りの時間を過ごせる様に、ホールにソファやテーブルなどを設置するなど工夫している。 | | |

福岡県グループホームあおぎり荘 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットB棟

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 85 | 33 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時や家族の面会時に、本人に馴染みのある家具や食器類等持ってきて頂く様に相談しながら、安心して生活できるよう支援している。 | | |
| 86 | — | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 冷暖房の温度調整は、利用者の体調や状態に合わせて調節している。 気になる臭いや空気の澱みがある場合は、職員同士声掛けしながら換気に気をつけるようにしている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | | |
| 87 | — | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室内の手すりの位置や、畳・ベッド使用など、個々の身体状況に合わせた環境作りに努めている。 | | |
| 88 | — | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 建物の設備や物品によって混乱や錯覚を起こすことがないように、備品設置時は職員で検討するようにしている。 玄関のガラスが透明なので、シールを貼ってドアがあることを認識してもらう等の工夫をしている。 | | |
| 89 | — | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 共有空間（食堂・談話室）から見えるところに花壇や畑を作り、採れたての野菜をメニューに取り入れ季節感を感じて頂いている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|------------------------|----|--|------------------|---|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| V サービスの成果に関する項目 | | | | |
| 90 | — | ○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない |
| 91 | — | ○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない |
| 92 | — | ○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 93 | — | ○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 94 | — | ○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 95 | — | ○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 96 | — | ○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|------|----|--|------------------|---|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| 97 | — | ○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない |
| 98 | — | ○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている | ○ | ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない |
| 99 | — | ○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない |
| 100 | — | ○職員は、生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 101 | — | ○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 102 | — | ○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近くに大きな川が流れ、水田が広がる環境を散歩したり、畑作りを行う等して活用したり、又、小学校や保育園が近くに点在し、定期的に交流を図り、近隣の住民の方々も大変協力的であるという地域資源が、当ホームの何よりのアピールポイントであり、他の事業所では簡単に模倣出来ない長所である。
音楽療法やケアビクス等を外部から講師を招きながら定期的を実施し、利用者の五感に働きかけるような取り組みを実施している。
昨年、同法人内で起きた介護死亡事故を教訓に、事故防止対策委員会を設置し、徹底したリスク管理を目指し学んでいる。